

---

## 在宅パーキンソン病患者の災害時要援護者登録に関する研究

(宇田優子ほか、日本災害看護学会 16;2-13, 2015)

2015 年 6 月 19 日、災害医学抄読会 <http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/circle/>

---

【目的】在宅パーキンソン病患者の災害時要援護者名簿への登録行動に焦点をあてて、ヘリスビリーフモデルを参考に登録行動に関連する要因を明らかにする。

【方法】東日本地域 8 県のパーキンソン病友の会全数 978 人を対象に、無記名郵送自記式質問紙調査を 2013 年 3～9 月に実施した。質問項目は「媒介要因」「脅威の認識」「重大性」「罹患性」「行動のきっかけ」「有益性」「障害」「行動」とした。

【結果】有効回答 308 人を分析対象とした。二値ロジスティック解析の結果、登録の有無には HBM の媒介要因である「災害時要援護登録制度を知っている」「在宅サービスを利用している」「男性」、「行動のきっかけ：今まで登録を促す他者からの働きかけや情報がある」「有益性：登録することによって避難支援を受けられると思う」が有意に影響していた。「罹患性」「重大性」「脅威の認識」「登録に伴う障害」は関連が認められなかった。

【研究の限界】研究対象者は、PD 患者全体からの抽出ではないこと、横断調査であるため、関連すると考えた要因と実際の登録行動との因果関係を検証できないこと、自記式質問紙調査であること、研究枠組みの問題などがある。

【結論】登録を促進させるためには、災害時要援護者登録の知識、民生委員や町内会、福祉関係者等を通じた個人的な勧め、登録で得られる有用性を提示することが有効であることが示唆された。